

道僧格の復舊について

秋 月 觀 暎

序

道僧格とは「令集解」に集録する僧尼令の諸註釋によつても略明かな如く、中國に於ける道士女冠及び僧尼を對象として制定された特別な刑法であつて、我が國の大寶、養老兩院令の編纂される際に重要な參考資料となつたと推定される唐時代の格である。

斯の如き道僧格の條文を今日若し利用出來るとするならば、唐代宗教々團の社會經濟史的の研究は云うに及ばず中國の宗教史並びに法制史の研究を進める上に誠に貴重な基礎資料であるにも拘らず、今日まで其の復舊に對する努力が拂はれなかつたのは、恐らく道僧格なるものが僅に「令集解」の註釋の一部に引用されている以外、これを傳えるものがなく、從來その存在に疑問が提出されていた結果であると考えられる。併しこの點に就いては、別に道僧格が中國

に於いて唐律と共に存在し、貞觀年間より少なくとも天寶初期に到る間、その實質的な助力を保ち僧道に對する刑法典として立派に存在していた事實を明かにしたいと思つてゐる。

拙稿は斯の如く既に散逸し去つた道僧格の條文を可及的に蒐集復元し、其の内容を明かにする事によつて今後の研究に役立たしめんとする意図を持つ新しい試みである。併しながら管見の爲、充分所期の成果を收め得なかつたのは遺憾である。願はくば先達諸賢の御叱正と教示とを賜りたい。

一

道僧格の復舊に當つて根本資料となるものは云うまでもなく道僧格を底本として編纂されている養老僧尼令である。従つてその復舊に先立ち僧尼令が編纂される際、僧道

格に對し果して如何の程度の改竄が加えられたかの點を明かにする事は、今後の復舊操作に極めて有利な手掛りを提供することとなる。今これを推測する一つの手段として、現存唐律疏議の中から、試みに僧尼令第一條に定める犯罪に對する處罰の規定を摘出し、それと養老律の殘卷（國史大系第二十二卷所收）及び其の殘餘を集める石原正明の律逸（續群書類從法制篇所收）、更にその餘遺を收拾された瀧川博士の律逸々（律令の研究所收）中の該當條文との照合比較を試みてみた⁽¹⁾。この結果を述べる前に一言注意すべき事は、我が國の大寶養老律は所謂永徽律を藍本として編纂されたものであつて、從來まで考えられていた様に、現存唐律疏議の據つてゐる開元律ではないと云う事實である⁽²⁾。従つて養老律と開元律たる「唐律疏議」とを比較する事は一見意味がない様に考えられもするが、併し兩律は從來考えられて來た如く親子の關係ではないにしても明かに兄弟の關係にあり共に永徽律を親としてゐるが故に兩律に一致を見出し得る點を以て親たる永徽律と見なす事に可能であり、略間違ひのない事と考えられるのである。従つて養老開元兩律の一致點を論據とする限り、それを永徽律について主張する事が出來ると云う事實である。而して兩律

の相當條文について比較を試みた結果は、養老律が唐律に對し全般的に一二等刑の輕減を行つてゐる以外には、僅かに道佛二教を對象としてゐる唐律より當時我が國に存在しなかつた道教の規定を削除し、様々な名稱を我が國の呼稱に從つて訂正してゐる二つの點を發見し得るに過ぎず實質的には何等改竄の跡を見出す事が出來なかつた⁽³⁾。斯様な結果から推して永徽律を藍本とせる養老律は、その編纂に際し、何等大きな改竄を加える事なく、殆んどそのまま襲用したと見なす事が出來るであらう。而して令格の根本法たる律の間に於いて斯の如くである限り、その從屬法である（近く發表予定である唐法に規定する宗教刑についてを参照されたい）道僧格と僧尼令との間に於いても格別大きな改竄が加えられたとは如何にしても考え難い。又令集解僧尼令の諸註釋に引用される道僧格の諸斷片によつて考察しても、就中古記或は穴云として引用されてゐる大寶令の條文は、勿論養老令も道僧格の原文に更に近いもので未だ必要なる改訂すら充分には行われてゐなかつた事が明かに窺われるのである⁽⁴⁾。以下に述べんとする道僧格復舊の操作も斯如き目論見を根底に置いて行われた事を一言前置きして本筋に這入る事とする。

註

(1) 云うまでもなく我が國に於いては令(養老令)が残り律が散逸したのに対し、中国に於いては令が散逸し律(唐律疏議)がそのまゝの形に残っている。

(2) 故唐律疏議製作年代考、東方学報東京第一ノ二、仁井田陞、牧野巽博士參照

(3) (1)「唐律疏議」卷九職制律、玄象器物の条文と養老律の殘卷の集録する当該条文とを比較し、前者と異なる点を括弧の中に示すならば、諸(凡)玄象單物、天文圖書、讖書兵書七曜歷、(曆)太乙電公式(太一雷公式)、私家不得、有違者徒二年(徒一年)。

(2)「唐律疏議」卷賊盜律、造祿書祿言の条文を同じく養老律殘卷の当該条文と比較すれば、諸造祿書及祿言者絞(凡造祿書祿言遠流)又同条の疏議に於いては、疏議曰造祿書祿言者、謂構_ニ成怪力之書_一、詐爲_ニ鬼神之語_一休、謂妄說他人及己身有休徵咎(中略この間全く同様)並涉_ニ於不順者絞(殘卷不記絞)。

(3)「唐律疏議」卷五名例律、共犯罪造意爲首の条文と律逸の当該条文と比較すれば、諸共犯罪一者、以_ニ造意_一爲_レ首、隨從者減_ニ三等_一。は何等異なる処がない。盜犯に対する刑罰は不詳であるが左記同様一二等の輕減が行われていたと察せられるが、從犯に対して主犯の罪一等を減して科罪する類推

軌範は全く同様である。

(4)例えば僧尼令第十三条、僧尼が修業の爲、山に籠り専ら靜寂を樂まんとする場合の資格、手續及び許可の方法を規定する条文に対し註釈せる「釈云」、「穴云」の一節に、令文が服餌仙道の修業を許可資格と規定している事に対し、その不要なるを説明して「釈云」は或説に云うとして「何者、唐格爲_ニ道士_一立_ニ三_一、此文_一者也」と述べている如く、大寶令は勿論養老令に到つても未だ道教に対する条項が拭い去られていない事実が明瞭である。

又、僧尼令第八条僧尼の訴訟の際して規定の所司を經す所謂越訴する事を禁じた条文に対する令集解註釈の中に「釈云、案_ニ道僧格_一、寺觀有_レ事須_レ論故也」、と言葉が見え、第二条註釈にも僧尼の禁ぜられた行爲として大寶令は未だ「道術符禁(道士女冠に対する禁止事項)が規定されていた事を「穴云」の一節が述べている。これ等の資料も僧尼令は道僧格の一部に手を加える事によつて成立したと云ふ事を思わしめる。

二

復舊の資料並びに操作の方法を簡単に紹介すれば、云う

までもなく養老律僧尼令の二十七條が根本資料であり、それ等に對して加えられ「令集解」に集録されている諸明法家の註釋がこれに次ぐ基礎的な資料である。參考資料としては唐律及び疏議、「唐六典」、「宋刑統」、「大宋僧史略」、更に「唐令拾遺」等が主なるものである。先づ此等諸文献に見出される道僧格に關する逸文斷片を蒐集、次いで僧尼令條文から蒐集資料に基いて道僧格に於ける存在を證し得るものと不明なるものと分類、更に前者の條文を中心となし蒐集資料に斷片的に示される道僧格の逸文を以て訂正復元を試み、道僧格條文の再見をはかつたものであるその結果を道僧格に於ける存否を中心として分類すれば次の如くなる。

道僧格に於ける存否を基準せる養老僧尼令二十七條分類表			
存在せる 条項	復旧の可否		
	(1) 原文又はそれに近く復旧可能	(2) 要點の復旧可能	(3) 復旧困難
	1 10 23	15 16 21	5 8 13 18
	後掲	後掲	集解、註に道僧格、唐律僧格等の引用あり

項	詳の条			存在不		
	(5) 復旧困難			(4) 原文に近く復旧可能と思われるも存否不確実		
	25	17	3	24	2	4
	26	19	6			7
	27	20	11			9
		22	14			
	白氏六帖に別動として引用す			唐六典註に類似條文の引用あり道僧格の存在の可能あり大寶令この條に道敎の規定ありたるも存否不詳(前註)		

斯の如く僧尼令二十七條中、道僧格に於ける存在が確證され而も略その内容を把握し得る條項は僅か六條に止まり頭初意圖した成果を擧げるに到らなかつたが、此を内容から調査するならば復舊條項の中には比較的重要なものが含まれて居り、この事は唐律の關連條文と照合對置する事によつて實唐代に行われていた宗教刑法の概略を窺見し得る事からも察せられるところである。

三

次に復舊し得た六條を掲げるが、附した條數は便宜上、復舊操作の中心となつた僧尼令に従う事にした。又復舊の

根據をなす諸資料は註及び參考に分けて各條末に附す事とする。

第一條

道士女冠尼、上觀ニ玄象、假設ニ災祥、語及ニ國家、妖ニ惑百姓、竝習ニ譯兵書、殺人奸盜、及犯下詐稱_レ得_ニ聖道ニ等罪上、獄成者、雖_レ會_レ赦、猶還俗⁽²⁾、竝依_ニ法律_ニ付_ニ官司_ニ科罪。

註(1)〔唐律疏議名例律註〕依_レ格(宋刑統造依制)道士等輒著_ニ俗服_ニ者、還俗。

〔同名例律〕謂稱_ニ道士女冠_ニ、僧尼同。

〔令集解僧尼令第八條註〕凡僧尼有_レ事須_レ論。釈云、案、道僧格、寺觀有_レ事須_レ論故也。

(2)〔令義解僧尼令註〕何者案_ニ道僧格_ニ、犯_ニ詐聖道罪_ニ、獄成者、雖_レ會_レ赦猶還俗。

〔令集解僧尼令註釈云〕檢_レ格、雖_レ會_レ赦猶還俗者、故知_ニ還俗科罪_ニ。

〔同註八云〕道僧格云、犯_ニ上件奸盜等_ニ、獄成雖_レ令_レ赦還俗者、彼格爲_レ防_ニ會赦_ニ。

〔同註八云〕本格云、獄成後、雖_レ令_レ赦還俗、而今省_ニ除還俗字_ニ故也。

〔唐律疏議卷三名例律〕獄成者、雖_レ令_レ赦、猶除名。

〔同名例疏議曰〕犯_ニ三十惡等罪_ニ、獄成之後、雖_レ會_ニ三大赦_ニ、猶除名。

參考

〔養老僧尼令第一條〕凡僧尼、上觀_ニ玄象_ニ、假設_ニ災祥_ニ、語及_ニ國家_ニ、妖_ニ惑百姓_ニ、竝習_ニ譯兵書_ニ、殺人奸盜、及詐稱_ニ得_ニ聖道_ニ、竝依_ニ法律_ニ官司_ニ科_レ罪。

〔唐律疏議卷九職制律、玄象器物之條〕諸玄象器物、天文圖書、讖書、兵書、七曜曆、太乙、雷公式、私家不_レ得_レ有、違者徒_ニ二年_ニ。

〔同卷十八賊盜律、造妖書妖言之條〕諸造妖書及妖言者絞。

〔同卷二十六雜律、監主於監守內姦之條〕諸監臨_ニ主守_ニ於_ニ監守內_ニ姦者、加_ニ姦罪_ニ一等、即居_ニ父母及夫喪_ニ、若_ニ道士女冠_ニ者、各又加_ニ二等_ニ、婦女以_ニ凡姦_ニ論。

〔同雜律、姦徒一年半之條〕諸姦者徒_ニ一年半_ニ、有_レ夫者徒_ニ二年_ニ、部曲雜戶官戶姦_ニ良人_ニ者、各加_ニ二等_ニ、即姦_ニ官私婢_ニ者杖九十、姦_ニ他人部曲雜戶官戶婦女_ニ者杖一百、强者各加_ニ二等_ニ、折傷者各加_ニ三關折傷罪_ニ一等。

〔同卷十九賊盜律強盜之條〕諸強盜不_レ得_レ財_ニ二年_ニ、一尺徒三年、二尺加_ニ一等_ニ、十尺及傷_ニ人者絞、殺人斬、其持_レ仗者雖不_レ得_レ財流_ニ三千里_ニ、五尺絞、傷_ニ人者斬。

〔同卷十九賊盜律竊盜之條〕諸竊盜不_レ得_レ財_ニ笞五十_ニ、一尺杖六十、一尺加_ニ一等_ニ、五尺徒一年、五尺加_ニ三等_ニ、五十尺

加役流。

〔同卷十七賊盜律、謀殺府主等官。謀殺期親尊長。部曲奴婢殺主。謀殺故夫父母。謀殺人之諸案〕自徒三年至斬。

第二十三條

道士女冠僧尼、有歷門教化者⁽¹⁾、百日苦使。

註(一)〔唐律疏議名例律註〕依格宋刑統作依制(道士等、

有歷門教化、百日苦使。

〔令集解僧尼令第五條註六云〕道僧格、乞余物、准僧教化論。

參考

〔養老僧尼令第二十三條〕凡僧尼等、令俗人付其經像、歷門教化、百日苦使、共俗人者依津論

第十條

道士女冠僧尼、輒著俗服⁽¹⁾者、還俗

(一)〔唐律疏議名例律註〕依格(宋刑統造依制)道士等、輒

著俗服者、還俗。

參考

〔唐六典卷四註〕

若服俗服(中略)還俗、

〔養老僧尼令第十條〕(前略)輒著俗服者、百日苦使。

〔唐律疏議名例律註〕依格、道士等、有歷門教化、百日苦

使。

〔令集解僧尼令第五條註六云〕道僧格、乞余物、准僧教化論。

以上の三條が略道僧格の原文に近く復舊し得たと考えられる條項であり、次に條文の要點を復舊し得たと思はれる三條項の概要を掲げる。

第十五條

道士女冠僧尼、有犯苦使⁽¹⁾、三綱立案、鑊閑、放一空院內、令其寫經、日課五紙、日滿檢紙數、足放出若不、解書者、遣執土木、作下修營功德等⁽²⁾。

註(一)〔令集解僧尼令第十五條註釈云〕道僧格云、有

犯苦使、三綱立案、鑊閑放一空院內、令其寫經、

日課五紙、日滿檢紙數、足放出、若不、解書者、遣

執土木、作下修營功德等上。

參考

〔養老僧尼令第五十五條〕凡僧尼有犯苦使、修營功德、料三理佛殿、灑掃等使。(以下略)

第十六條

道士女冠僧尼、不得移名⁽¹⁾。若詐爲方便、移名他者、還俗、依律科罪、其所由人與同罪。

註 (1) (令集解僧尼令註古記云) 不得移名謂、己身還俗、而名與他人^三為^レ僧是、若詐為^三方便移^三名他^一者謂。

移^三名他^一人^三為^レ僧、己^三為^レ僧是。

〔同註釈云〕 移^三名他^一者、己之公驗売^三与俗人^一、彼此共為^レ僧是、唐格移^レ名與^レ此殊異。

參 考

〔養老僧尼令第十六條〕 凡僧尼詐為^三方便^一、移^三名他^一者還俗、依律科^レ罪其所^レ由人與同罪。

第二十一條

道士女冠僧尼、犯^三徒以上^一、送^三官司^一依^三常律^一推斷⁽¹⁾、許^下以^三告牒^一當^中徒^一一年⁽²⁾、若有^三餘罪^一者、依^レ律科斷、如^レ犯^三三百杖以下^一、每^一杖十^一令^三苦使十日^一⁽³⁾、(中不詳)如^下苦使條制外、復犯^レ罪不^上至^三還俗^一者、令^三三綱^一、量^レ事科^レ罰、被^レ罪之人、不^レ得^レ告^三本寺觀^一、三綱及徒衆事故⁽⁴⁾。(以下不詳)

註 (1) 令集解僧尼令註古記云 問^三僧尼犯徒以上^一、送^三官司^一依^三常律^一推斷。

(2) (令集解僧尼令註釈云) 案、道僧格、此条除^三一篇之内稱^二依^レ律罪、或還俗或苦使^一之外、為^三難犯^一立^レ例、假令僧尼奸盜者、還俗、余科^二本罪^一、若^下犯^三難犯^一徒^二一年以上^一者、以^三告牒^一當^中徒^一一年、余一年配^三徒役之類^一。

〔令集解僧尼令註古記云〕 案^三道僧格^一、及^三此条^一、公驗為^三告牒^一。

〔唐律疏議卷六名例律疏議曰〕 唯稱^三道士女冠^一者、即僧尼並同、諸道士女冠、時犯^レ姦者、還俗後事^レ發、亦依^三犯時^一加^レ罪。仍同^三白丁^一徒^一、不^レ得^下以^三告牒^一當^中徒^一之、

(3) (唐律疏議卷三名例律、除名比徒三年条) 若誣^三告道士女冠^一、應^三還俗^一者、比^三徒一年^一、其贖^三苦使^一者、十日比^三答十^一。

(4) (令集解僧尼令第八條註) 凡僧尼有^レ事須^レ論、釈云、案、道僧格、寺觀有^レ事須^レ論故也。

(5) (令集解僧尼令註六云) 道僧格、云^三徒衆事故^一。

參 考

〔養老僧尼令第二十一條〕 凡僧尼有^レ犯、准^三格律^一、合^三徒一年以上^一者、還俗、許^下以^三告牒^一當^中徒^一一年⁽¹⁾、若有^三余罪^一者依^レ律科斷、如^レ犯^三三百杖以下^一、每^一杖十^一令^三苦使十日^一、若罪不^上至^三還俗^一、及雖^レ應^三還俗^一未判訖、並散禁、如下苦使条制外、復犯^レ罪不^上至^三還俗^一者、令^三三綱^一、依^レ佛法^一量^レ事科^レ罪、其還俗並被^レ罰之人、不^レ得^レ告^三本寺三綱及衆事^一、告^三謀大逆謀反、及妖言惑^一衆者、不^レ在^三此例^一。

附記 本稿は道僧格の研究と題する論文の一部であるが、紙数の都合上、道僧格の復旧に関する部分のみを採つて一篇とした。